

余命告知

千葉絹子さん

○笹舟は銀河へ未完の影載せて

○べきべくべかり未知なる風を真っ向に

○生きるとは死ぬこと明日という伏せ字

○式次第灰になるまで消えるまで

○とつおいつグラスの底の立ち泳ぎ

○合歓の花大地へ還る子守唄

○迷宮の果てへ抗がん剤投与

○水面へ響かぬように嗚咽する

○迷界へ溶ける樹海のペンの臍

○有終の美とは何ぞや蝉しぐれ



宮城県出身。千葉県在住。1985年頃より作句開始。川柳公論等を経て千葉県川柳作家連盟副会長、同連盟機関紙「犬吠」黒潮会員、川柳宮城野社同人、みはま川柳会代表。著書に「あやぎぬ頌」「風と餅と」「川柳作家ベストコレクション千葉絹子」